

# よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙顕寺  
長春山 本誓寺

## 『よろこび』四十九（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

幸福とは、感謝の心を前提にする生きる喜びである。そこには、魂の体験、霊的成長がある。

ここでこの幸福を指しているのはわたし達人類の一人であるが、その奥には神仏の意志がある。宇宙意識は、私たちの、眼耳鼻舌身を通して世界を認識し、宇宙意識（意）の変化を味わっている。従って宇宙本仏は私たちの一人一人の、魂の経験、感動、愛、苦しみ、幸福を自分の意識のよう感じて生きている。私たちが喜び、それは宇宙意識の至上の喜びであり宝である。神仏は、私たちが幸福を願う祈っておられる。祈りでもあり人類総てが幸福であることが神仏の目的である。行動するとき神仏の慈愛と力は私たちに注がれる。

私たちの人生の理想を本仏の願いと重ねあわせてみよう。私たちの思いと行いを神仏の意志にあわせてみよう。そこに本仏の生命の奔流が流れてくる。上の喜びが訪れるであろう。さあ私たちの想いと行いを宇宙意識エネルギー（九識）に同調させよう。パスワードは南無妙法蓮華経。そうすれば、仏の修行、カルマと功德はあなたのものである。



### みおしえ

「放逸におぼるるなかれ  
愛欲のたのしみを習いとするなかれ  
まこといそしみと  
思い静かなる人こそ  
上なきの安楽（たのしみ）をえん  
（法句經二十七友松園論訳）」

放逸に耽（ふけ）るな。愛欲と歓楽に親しむな。おこたることなく思念をこらす者は、大いなる楽しみを得る」（法句經二十七中村元訳）

釋尊は、王子として、素晴らしい宮殿に住まい美女に囲まれ欲望の満たされる状況にありました。が、その無常と愚かさを知り、真の幸福に至る道を求め出家しました。

真の幸福は、この娑婆世界での一時的な肉体的快楽ではなく、悟りによって得られる永続的な本当の安らぎ、永遠の命、魂の自由にあります。真の魂の満足とも言えましょう。

### 心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え  
放逸にふけることなく愛欲と  
歓楽を離れ  
大いなる楽しみを得よう

